

水耕栽培システム「Stream Garden」は、都市型のライフスタイルに合った栽培キット。Green Fortuneのメンバー Hans Anderssonさんと Johan Svenssonさんは、このシステムを使って都市型農業の在り方を模索している。

Green Fortune

グリーンフォーチュン

自然を感じて暮らす新しいライフスタイルの提案。

デザイナーの Hans Anderssonさんと Johan Svenssonさんがグリーンを共通項にして立ち上げた Green Fortune

都市にいながらして自然を感じられるデザインコンシヤスなキットを開発しました。



今年の秋からスタートするエキシビション「Fiction Hotel」に参加するGreen Fortuneの展示風景。ストックホルム中心部にある文化センター「Kulturhuset」の屋上が会場と変わっている。個人や企業がマイポットを買ってここで栽培するというシステム。



上ノポットの蓋から新しいよき種を播く植物。種が水に浮かぶことが大切。中ノ仕組はStream Gardenと同じ。ここでは実験的な試みとしてさまざまなプランが栽培されている。ちなみに数層階層も準備を好む植物には大きな工夫が要する。右ノ植え込み用土は水を固定するためのものなので固くはない。蓋はビー玉の類を土間として使用する。

Workplace & Design of Swedish Style



Green Fortune
元SnowcrashのメンバーだったHans Anderssonさんと Johan Svenssonさんが2004年に立ち上げた会社。現在はアーバン・カルティベイトをテーマにしたStream Gardenの製造・販売を行う。
www.greenfortune.com



上ノGreen Fortuneのメンバー Hans Anderssonさんと Johan Svenssonさん(右)。右ノStream GardenのキットをテーマにしたStream Gardenの製造・販売を行う。Photo: Peter Orsi



都市にアーバン・カルティベイトを定着させる。

有機的なラインを張く白いタンクから、青々と茂るハーブや草花が生える不思議な装置……「Stream Garden」は、Hans Anderssonさんと Johan Svenssonさんの二人が開発した水耕栽培キット。水と定期的な液肥を与えれば、あとはグリーンがすくすくと育ってくれるという仕組み。マットな白のユニークな形をしたタンクは、意外と場所を選ばず、どんなスペースにもマッチする。

「都市にいながら自然を感じられることがこのStream Gardenのコンセプトです。都市型であるということは、コンパクトで軽量。デザイン性が高いことなどが求められます。そこで水耕栽培で気軽に楽しめる栽培キットをデザインすることを思いついで」と Hans Anderssonさん。水耕栽培は土をストックしておく必要はないし、移動するときには容器から水を抜いて簡単に持ち運べ、水を溜めて育てるのだから、忙しくて水遣りを忘れがちな人でも気軽に栽培

できることが魅力。その魅力を最大に生かしながらインテリア性を高めたデザインにしたのが、この「Stream Garden」というわけである。

Hans Anderssonさんと Johan Svenssonさんは、前衛的なインテリアデザイン集団 Snowcrash のメンバーだった。しかし Snowcrash が解散となり、二人の共通項である「グリーンハウス(温室)」を活動のベースにできないかと考え、Stream Garden の開発に取り組み、2004年に Green Fortune を立ち上げた。グリーンハウスが共通項というのも不思議だが、Anderssonさんは実家がハウス用の照明器具をつくるメーカーで、Svenssonさんはおじいさんがグリーンハウスを持ち、自分自身もルーフトップガーデンのガーデナーなのである。

Green Fortune としての活動は、2005年2月に行われたストックホルムファニチュアフェアに出展し、さらに10月8

日から2006年2月12までは、ストックホルム市の中心にある文化センター「Kulturhuset」の5階を使って行われるエキシビション「Fiction Hotel」に参加する。このエキシビションは、スウェーデンを拠点とするデザイナーやアーティストが参加して、2005年に向けた新しいライフスタイルを提案するというもの。その中でこのStream Gardenは、都市で使われなくなっているスペース(屋上で物置のようになっているグリーンハウス)を有効利用しつつ、未来的な自然と人間の関わり方を提案する。Stream Gardenを使った彼らの取り組みは、このエキシビションの設定年代よりも早い2005年に、都市のビル空きスペースを、アーバン・カルティベイトの拠点として位置づけ、都市生活者と農業の新しい関係をつくること。近い将来ストックホルムのスカイラインが変わるかもしれない。